

危険予測トレーニング

危険予測トレーニングを繰り返すことで道路上の危険を見つけ出す能力が高まる

法令違反 → 安全不確認 (30.7%)、脇見運転 (15.6%)、動静不注意 (11.3%)
 漫然運転 (8.6%)、運転操作不適 (6.6%)

交通事故発生状況資料
警察庁H29年

共通する根本的な認知機能障害

注意障害

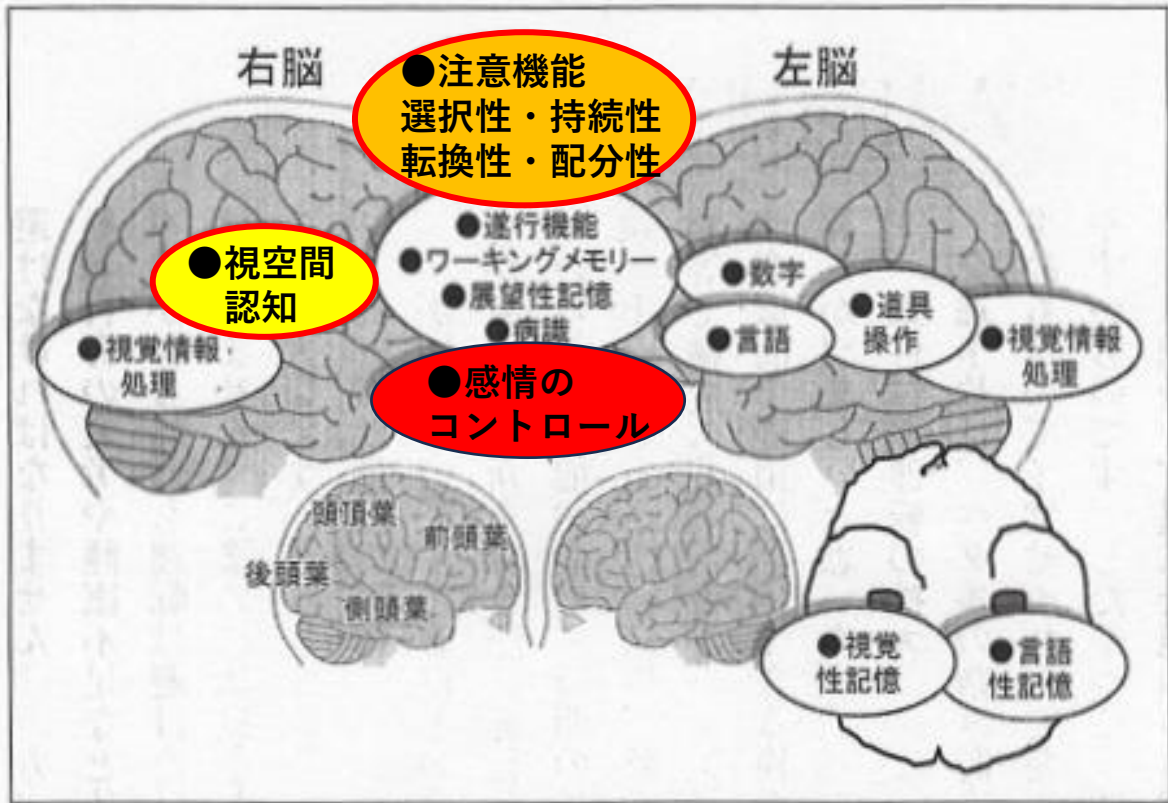


図 運転に必要な主な認知機能と脳の部位

注意機能

- 選択性注意・・・一点に集中する能力
- 配分性注意・・・複数の刺激に同時に注意を向ける能力
- 転換性注意・・・注意の方向を転換する能力

※ 注意を一点に集中際は、不要な情報を遮断する能力を有す

視空間認知

空間に位置する対象物の位置を認識する機能

安全運転に向けて

- ・健康状態
- ・精神状態
- ・性格
- ・技量等



安全運転には、メタ認知機能が重要
・・・自分を客観視すること（自分の状態を認識）



危険予知トレーニング
・ドライブレコーダー画像教育
・バーチャル体験等

訓練で向上



優良運転手の方が反応が早い

操作（開始時間、操作量）	リスク知覚
危険な対象（ハザード）出現	ハザード知覚

↑ 実験

優良運転者・・・注視対象の数が少ない
少ない注視対象を繰り返し見ていた
事故反復者・・・注視対象の数が多
運転に関係ない対象を選別できない

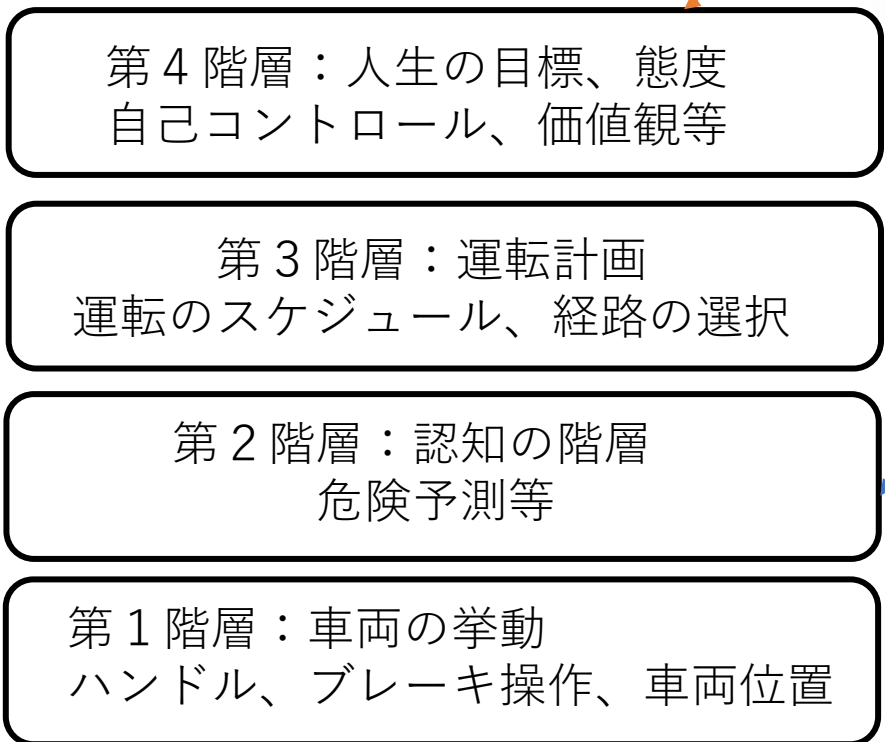
ハザード知覚・・・ある対象が自分にとって危険であるという文脈を知覚する過程

リスク知覚・・・危なさの程度を量的に推測し知覚する過程

(The Safety Japan 2024 冬号より)



実技講習



運転行動の階層モデル

(交通安全教育12月号 アクティブラーニングの活用より)

